

令和5年度第2回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議録

- 1 会議の名称 令和5年度第2回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議
- 2 開催日時 令和5年11月9日（木）午前10時00分から正午まで
- 3 開催場所 水戸市役所 3階 中会議室
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員
飯島清光，海老原健，鬼澤真寿，小林謙，佐川泰弘，笹尾光，島田弘子，鈴木吉昭，
田山知賀子，任田正史，中島陽，沼田安広，萩谷慎一，二川泰久，細谷智宏，保立武憲，
堀井武重，三上靖彦，村中均，渡辺潤
 - (2) 執行機関
小田木健治，宮川孝光，木村陽子，根本龍典，高田真左紀，川野邊俊，村井明子
- 5 議題及び公開・非公開の別
 - (1) 「（仮称）水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第3次）（水戸市デジタル田園都市
構想総合戦略）」骨子（案）について（公開）
- 6 非公開の理由 適用なし
- 7 傍聴人の数 0人
- 8 会議資料の名称
資 料 「（仮称）水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第3次）（水戸市デジタル
田園都市構想総合戦略）」骨子（案）
参考資料① 市総合計画等及び国の関連法令・計画等との関係性から見る「（仮称）水戸市ま
ち・ひと・しごと創生総合戦略（第3次）（水戸市デジタル田園都市構想総合
戦略）」の位置付けと役割
参考資料② 水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る事業等の評価について（意見）
参考資料③ 策定スケジュール
参考資料④ 水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第2次）
- 9 発言の内容
【政策企画課】 定刻前ではございますが、お揃いになりましたので、ただいまから令和5年度第
2回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議を開催させていただきます。本日は御多
用の折にもかかわらず、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。まずは
じめに、令和4年度の事業評価につきましては、前回の会議において、皆様からいただ
いた御意見を踏まえ、10月26日に開催した水戸市まち・ひと・しごと創生推進本部会
議において評価を決定いたしましたので御報告いたします。御協力ありがとうございます。
現在、策定を進めている新たな総合戦略につきましては、前回の会議でいただいた策

定基本方針に対する御意見を踏まえて、骨子（案）を取りまとめたところであります。本日は、この骨子（案）に対する御意見をいただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。それでは、座長に議事の進行をお願いいたします。____座長、よろしくお願いいたします。

【座長】皆様、おはようございます。ただいまのお話にもありましたように、本会議ではルーティーンとして、前年度の事業の評価を実施しておりますが、水戸市においては、新たな総合計画を策定しているほか、国の総合戦略も変わったため、現行の水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略についても見直し、新たな総合戦略を策定するというので、今回は骨子（案）の協議を行うためにお集まりいただいた次第でございます。皆様の忌憚なきご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは議事に入りますが、それに先立ちまして、委員の皆様の出席状況等を申し上げます。本日は20名の委員の皆様に直接対面で御出席いただいております。____委員、____委員、____委員、____委員、____委員、____委員、____委員からは欠席の御連絡を受けております。

また、本日の会議録の署名につきましては、____委員と____委員をお願いいたします。

本会議は原則公開としていますが、傍聴の希望者はいらっしゃらないということでございます。

それでは早速、議事に入りたいと思います。はじめに事務局から、「(仮称)水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略(第3次)(水戸市デジタル田園都市構想総合戦略)」の骨子（案）について説明をいただき、その後、委員の皆様から御意見を賜りたいと思います。本日はいただいた御意見については、今後取りまとめていく素案に反映させていくということでございます。そのため、今年度中にもう1度、2月頃に会議の開催を予定しており、そこで素案を示していくということになると思います。それでは、事務局の方から説明をお願いいたします。

(参考資料①，資料の説明)

【座長】ありがとうございました。新たな総合戦略の骨子（案）について説明をいただきました。内容も多岐にわたっていますけれども、作業のイメージについては、皆さんよろしいでしょうか。国との関係では、新たな総合戦略を作っていくのが努力義務になっているということです。現在の第7次総合計画の策定状況はいかがでしょう。

【政策企画課】水戸市におきましては、昨年度から今年度にわたりまして、第7次総合計画の策定を進めているところでございます。現在、総合企画審議会におきまして、最終的な御意見の取りまとめを行っているところでございます。その答申を受けまして、最終的な案としての決定を11月下旬に取りまとめ、一部議案となりますので、議会の方へのお示ししていくというスケジュールで進めているところでございます。

【座長】ほぼ固まってきているということですね。それを前提に、御意見いただければと思います。なお、各施策については内容が多岐にわたっており、施策の柱が大きく4つに分かれておりますので、それぞれの柱ごとに御意見をいただきたいと思っております。

はじめに、資料の1ページから4ページまでの課題の設定と戦略の考え方のところ御意見をいただければと思います。こちらの部分につきまして、意見はございますか。

【____委員】計画の大前提のところ、最初に気になりましたのは3ページに参考として記載さ

れている内閣官房で実施したアンケートの結果についてです。質問事項として、回答者が地方に住むという決断をした際に影響を与えた要素について聞いており、仕事や暮らしに関わる項目が回答の選択肢として用意されていた形式だと思うのですが、なぜそもそも地方を気にしたのか、というその前の段階が抜けているような気がします。地方を気にした理由として、実家があるとか、いろいろな理由があると思いますが、そのデータが入っていないので、大きな動機がちょっとよく分からないと感じます。

また、記載されているアンケートの回答を見ると、UJターンとIターンいずれも、特にないという回答が多いのですが、特にないと回答した人はこれしか選択してないはず。それに比べ、他の回答は複数選択で仕事の項目が31.2%となっています。それらを踏まえると、特にないと考えている人の数が非常に多いと感じています。

加えて、3ページ下の水戸市の施策の現状に対する満足度のアンケートを見ると、20歳代からの評価が下位の項目として、観光の振興が一番となっています。これは都市の魅力とか都市のイメージのことを言っているのではないかと思います。そこから考えると、水戸に住み続けようと思うときに、仕事のことよりも、水戸ってかっこいいかなとか、そういったイメージの部分、つまり、仕事の中身以外の部分で決めているのではないかと感じています。

関連して、つくばの研究者が親子で土浦一高の旧本館とか門構えを見て、この高校に行きたいと決めたという話を思い出しました。水戸でも三の丸小学校とか二中とか、綺麗に整備されたところの学校に通わせたいという親が結構多いと思います。

私の業界で、小美玉でいい仕事をしている会社があるのですが、茨城大学の工学部にブースを設けて、就職に関する会社説明会を開いたところ、水戸ではないから誰もそのブースに行かないのです。私の会社は水戸にあるので学生が来ました。つまり、会社の中身以前に、地域を選んでいるのです。

仕事を重点に置いて新たな総合戦略づくりが進められているようではすけれども、まちの格をどう高めるかという点が1番目にないと、どんなに良い会社があったとしても、人を呼び込むことはできないのではないかと感じました。以上でございます。

【座長】ありがとうございます。3ページのアンケートの結果について、国のアンケートでは、地方に住むという決断をした際に、影響を与えた要素は何ですかという項目が記載されていますが、その他に何か参考となるものをお示しいただけないかと思います。

【政策企画課】まずは、記載している国のアンケート結果の前段階についてですが、その他の質問項目として、実際にこの地方に移り住むことを意識したきっかけについてお答えくださいというものもございました。こちらの質問について、UJターンの方に関して多い回答を順に申し上げますと、1番目が将来のライフプランを考えたことがきっかけとして13%程度、その次は転勤がきっかけで同じく13%程度、次に、現在の生活や仕事に違和感、限界を感じたことがきっかけとして12%程度となっております。続いて、Iターンされた方に関しては、結婚がきっかけとして20%程度、続いて新卒の就職活動がきっかけとして15%程度、転勤の関係が同じように15%程度となっております。

また、市民1万人アンケートにおける水戸市の施策の現状に対する満足度において、20歳代からの評価が下位の項目として、観光の振興が一番となっていることから、20歳代は仕事の中身をあまり気にしていないのではないかというご指摘については、今後、若い世代の方々の意見を聞いていく際に、留意しながら確認していきたいと思っています。

また、最後のお話の中では、会社の中身以前に地域が選ばれているというような視点

から、仕事以外にも大事なところがあるのではないかと御指摘かと思ひます。今回の骨子（案）では、重点として打ち出しているものとして、「しごとの創生」のほかに、「シティプロモーション」がござひます。この、「シティプロモーション」については、しごと、ひと、まちの創生とその3つの好循環によって、まち自体の魅力を向上させることとあわせ、これらをしっかりと外に打ち出していくということが重要であると認識していることから、本戦略の重点として設定してござひます。

市民1万人アンケートで水戸市にその後も住み続けたい、定住意向がある、と回答した方の主な理由として、自分が生まれ育ったところだからという理由が多く挙げられてござひます。一方で、水戸に住みたくないと思ふ方の理由を見ますと、この土地に愛着がない、生まれ育った場所だけれども、好きな部分がないといったところが見受けられます。そのことから、それぞれの土地に対する思ひは人それぞれであると考えられますが、土地に対する愛着は、実際に住む場所を決める際に、一定程度関係していると考えられるため、本戦略において、「シティプロモーション」を重点とし、仕事と合わせて打ち出していくことで、仕事だけでなく地元への愛着をしっかりと高めていくということが大事であると考えてござひます。以上でござひます。

【座長】ありがとうございます。おそらく県内で見たときに水戸は相対的に優位な位置にあり、それをどう生かしていくのかという提起だと思ひます。総合戦略を策定するにあたって、以前は高校生とか大学生にもアンケートを取っていたような記憶もあるのですが、今回はいかがでしょうか。もし、高校生や大学生が水戸での就職をどう意識しているかというような項目があれば、説得力が上がるかなと思ひます。

【政策企画課】参考資料等を再度整理して、検討したいと思ひます。

【___委員】総合戦略のタイトルについて、「若い世代に選ばれる MITO づくり総合戦略」となっており、水戸がアルファベットで表記されていますけれども、何か意図があれば教えていただければと思ひます。

【座長】事務局から回答をお願いします。

【政策企画課】アルファベットにした意図については、総合戦略自体が若い世代に選ばれるまちを目指していくものであり、市民の皆様や若い世代の皆様にも分かりやすく伝わるようなものにしていきたいという考えからでござひます。そのため、タイトルのほかにも、若い世代の目に留まる大きな項目に関しては、あえてアルファベット表記をすることで、目に留まる表現にしていくという意図がござひます。具体的には、タイトル以外に目指す姿や基本目標の部分までは、アルファベットで表現してござひます。以上でござひます。

【___委員】この戦略については、やっぱりタイトルにあるとおり、若い人を呼び込むために仕事をどうするかというところに一番重点を置きたいという事務局の意図があると理解してござひます。一方で、基軸とする3つの視点のうち、「まち・ひと・しごとの好循環」に挙げられている「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「まち」をつくるという表現は違和感があると感じます。やはり、「まち」が「ひと」を呼ぶのではないかと感じるところであり、もう少し飲み込みやすいように表現したほうがいいのではないかと感じます。その上で、この戦略については、若い人の仕事に一番重点を置く計画であるというように整理した方が分かりやすくなるのではないかと感想を持ちました。以上です。

【座長】私も、同じ趣旨で「しごと」を全面に出していくのであれば、水戸でこそできる仕事や水戸でしかできない仕事というものがあつてこそだという気がしますので、そういっ

た部分をもう少し具体的な施策に入れていく必要があると思います。

【委員】私も「まち・ひと・しごとの好循環」について、「しごと」が先に来るのは違和感があると感じます。この順番にするのであれば、納得できるような文言や文章を考えた方が説得力があるのではないかと思います。

もう1点、シティプロモーションは非常に大事だと思いますが、「仕事」に照準を当てたシティプロモーションを行ったとしても、仕事をするために水戸を選んで人が来るかどうかを考えると、非常に難しい部分があるのではないかと感じます。以前、たくさんの大学生と関わる機会があり、水戸でどんな仕事ができますかと聞かれたときに、技術系は別にしても、公務員や教員、銀行員などいくつかの選択肢しか返答できませんでした。そのため、水戸の中で仕事の魅力を発信していくシティプロモーションも非常に難しいのではないのかなと思います。仕事に関するシティプロモーションをしていくに当たり、具体的にどういうところに重点を置いて、何をコンセプトに水戸を売り込むのかというところが、まだイメージできてない部分がありますので、行政としてどう考えているのか、御説明していただけるとありがたいと思います。

【政策企画課】御質問にお答えいたします。

まず一つ目として、まち・ひと・しごとの順番に関しましては、考え方としては、どういう環境で働いているか、どういう時間を過ごしているかという日常をその背景としてイメージしているものでございまして、日々のライフスタイルというところも、この仕事を起点にイメージしていただくようなものであると考えており、広がりのある考え方で捉えております。表現については、さらに検討を進めてまいりたいと思います。

また、シティプロモーションについては、時代に即した情報発信媒体を効果的に活用しながら、まち・ひと・しごとの好循環により高めていったまちの魅力を発信し、水戸には様々な選択肢があり、いろいろな生き方ができるということを伝えていきたいと考えています。情報発信の際には、個別の対象者に届きやすい方法で、その方が求めるような情報にうまくアレンジした上で、水戸で暮らしていく魅力を届けていきたいと考えております。以上でございます。

【市長公室長】補足で御説明させていただきます。

まち・ひと・しごとの順番からいくと「まち」が先ではないかという御意見いただきましたが、若い人たちのニーズ、意向の調査として、総合計画を作る際に市民1万人アンケートだけではなく、茨城大学、常磐大学の御協力をいただき、学生たちとの意見交換、提言等もいただいたところでもあります。また、高校生との意見交換会なども実施してまいりました。その中で、大学生たちがこの水戸のまちに住んでいくには、やはり仕事がないと水戸のまちに住み続けられないというような意見もございました。

また、仕事について、公務員などしかイメージがないのではないかというような御意見もいただきましたけれども、水戸に約12,000ある事業所の中には、日本有数の売り上げを誇っている会社も複数ございます。そういった優良な会社があるということ自体が学生たちにも知られていないというところがありますので、水戸市におきましても、数年前から企業ガイドブックを作成し、高校生、あるいは東京圏で勉強されている大学生の学生たちにも、水戸に戻ってきて優良な企業があるという紹介をさせていただいております。

しかしながら、その部分のPR、情報発信が不足しているということは否めないところでございますので、若い人たちに水戸のまちに住んでいただく、Uターンしていただくためには、「しごと」を創生して、優良な企業があるということもシティプロモーション

ンとして紹介していく必要があると考えています。こういう流れの中で、若い人たちの選択肢の1番目として仕事がある以上、「しごと」の創生に力点を置いて、計画を作っていきたいと考えております。

【座長】それぞれの意見がございますので、素案の作成に当たって、参考にしていただき検討いただければと思います。次に、具体的な施策に入っていきたいと思います。5ページから施策の4つの柱の説明がございまして、一つ目の柱である「しごと」の創生が6ページ、7ページになります。既に仕事の話になっていきますけれども、この「しごと」の創生で挙げられている4つの具体的施策について、皆様の御意見をいただきます。

【委員】第2次総合戦略の策定にも関わっており、訴え続けてきたことは、女性という視点をもう少し入れて欲しいということです。主題が若い世代の人達がこのまちを選んで仕事をして、人口増につなげていくということですから、女性に特化することは難しかった事実ではありますが、今回の総合戦略は、DXの推進など新たな取組が入る計画になると認識しております。

1ページ下段に参考として記載されているデジタル田園都市国家構想総合戦略の社会の課題環境解決に対する取組には、「女性や若者に選ばれるまちづくり」と明記されていますが、2023年のジェンダーギャップ指数において、日本は146か国中125位と下位に位置しており、これまでで最も悪い順位になっています。女性活躍推進法ができ、家庭と仕事のワークライフバランスを充実させることによって、子どもを産みたいという女性は増えています。特に2人以上という希望が多いです。そういう視点から俯瞰した時に、施策の柱2「ひとの創生」における具体的施策3「こども・若者が活躍できる機会の創出」に、女性という文字を位置付けて欲しいと考えております。

SDGsの視点については、この会議でも推進していくことになっておりますが、第2次総合戦略の60ページを見ますと、SDGsの17の目標のうちジェンダー平等については、「多様な雇用の創出、地方雇用の促進」における「働く人の確保、育成」にしか位置付けられていないと思います。他の自治体のまち・ひと・しごと総合戦略を見ると、女性の活躍は計画にしっかりと位置付けられています。

女性は子どもを産む性ですけれども、これからの時代は、仕事も生活も両立し、ワークライフバランスを充実させることができこそ、学校を卒業しても残ってもらえる、大学進学で出て行っても、帰ってきて水戸を選んでもらえることにつながっていくと感じます。そのような中で、やはり若者だけでなく女性の視点も重要であると思いますので、「しごとの創生」又は「まちの創生」の具体的事業3に女性という文言を明記して欲しいという要望と、現状女性が入っていない理由をお聞きしたいと思います。

【政策企画課】SDGsについては、素案の中でもしっかりと表現をしまいたいと考えております。その中でも女性活躍の部分ではありますが、「若い世代」という表現には、当然女性も入っており、若い世代がワークライフバランスを整えて、仕事をしていくためには、男性も女性も、希望に応じてしっかり社会に参画していくことができる環境をつくるのが、日本全体で求められていることですので、基本的に、いただいた御意見の内容は、すべての分野に関係してくるものだと考えております。

特に、女性活躍の位置付けで想定しているところは、6ページの「しごとの創生」の具体的施策1「誰もが働きやすい環境づくり」というところがございます。こちらにワークライフバランス等の取組を位置付けていくものと考えております。また、11ページの「まちの創生」における具体的施策3における「多様な人材が暮らしやすい環境づくり」や10ページの具体的施策1における「生涯にわたって生き生きと暮らせる環境づ

くり」などに関連する施策が入ってくるものと想定しております。女性活躍の打ち出し方の表現につきましては、第7次総合計画の考え方等もございますので、その他の個別計画との整合性も踏まえながら、今後位置付けについて検討していきたいと考えております。

【政策企画課】補足で御説明いたします。

骨子（案）に記載の「想定される主な事業」については、例えば第2次総合戦略の45ページをご覧くださいますと、「主な事業」において「事業名」と「事業概要」という項目があり、このうちの「事業名」に該当するイメージでございます。「想定される主な事業」の下には「事業概要」や様々な具体的事業が紐づいてくるものだと考えており、これらについては、現在整理しているところでありますので、今後、素案の段階で御説明をしていきたいと思っております。

委員のおっしゃる通り、女性活躍については幅広い範囲の話だと考えており、先ほどの御説明にもございましたが、その中でも特に「誰もが働きやすい環境づくり」や「多様な人材が暮らしやすい環境づくり」の事業概要において、しっかりと打ち出していく必要があると考えております。そのため、委員の御意見を踏まえ、次の素案の段階でしっかりとお示ししてまいります。

【座長】水戸がどうかは分かりませんが、茨城県全体のジェンダーギャップやダイバーシティという点では、全国的に見て下位の方にいるというファクトはあります。その中で、水戸の特徴、施策の特徴、水戸の将来像を考えたときに、例えば経営層にどういうふうに女性の割合を増やしていくのかということが課題としてあると思えます。そこについて、何となく総合戦略に女性という言葉を入れるというよりは、特に女性を意識した施策等を入れて、そこを目的意識に追求しないと順位が上がってこないという思いが委員の中にはあると思えます。

ロールモデルとなるような幹部層等を作っていくということが、指標上も明らかに遅れておりますので、そのための取組を具体的施策の中に位置付けることで、水戸はそこを率先して取り組んでいくということを表現していただきたいということではないかと思えますので、検討をお願いします。

【委員】「しごと」の創生というところに関わることかと思えます。

要するに、いい仕事を創生して、水戸に若い人をたくさん呼び込みたい、住んでもらいたいという、そういう理解でよろしいですね。非常に重要な話だと思います。

私も大学生を抱えているところにおりますので、どこで仕事をしようか悩んでいる子たちをたくさん見ております。ライフスタイルが多様化し、どこでもオンラインで仕事ができることから、東京圏に集中しなくてもいいのではないかという流れもあるかと思えます。どこでも仕事ができるということは、水戸が有利でもあり不利でもあると思えます。つまり、横並びで選択をされてしまいます。水戸自体は、芸術面では非常に晴らしいものもありますし、歴史的な街並みもあるとてもいいところだと思いますが、その上で、何をもちって選択してもらえるかという部分が実は一番大切だと思います。

想定される主な事業に「創業・スタートアップ支援の充実」がありますが、とても大切な部分だろうと思えます。例は大きすぎるかもしれませんが、シリコンバレーは先端技術の集積地であり、起業家が集まることにより地域自体が発展してきました。こういった例は、これまでもある話だと思いますので、「創業・スタートアップ支援の充実」は、ぜひ進めていただきたいのですが、重要になるのがやはり横並びの話だと思います。

茨城県に限らず、比べられる時代にもなっていると思えますので、他地域と比べても、

水戸の支援はすごいと言われるような施策に取り組んでいくべきじゃないかというふうに思います。例えばスタートアップ支援の分野で画期的な取組をしている事例をご存知でしたら教えてください。

【政策企画課】 申し訳ありませんが、先進事例が手元にございません。所管課は商工課となり、他市町村の情報を収集していると思いますので、商工課等とも連携してリストアップし、御報告させていただきたいと思います

【___委員】 質問と意見です。

まず質問ですが、具体的施策1「誰もが働きやすい環境づくり」について、働き方という考え方は主観が入っており、かつ福利厚生の部分も大きく絡むところですので、どのように評価の指数を設定していくのかということが一つです。

また、具体的施策2「持続可能な農業の確立」はどのようなことをイメージされているのか、どのように評価指数に結びつけていくのかをお聞きしたいと思います。

次に意見です。具体的施策3の「想定される主な事業」として「まちなかの活性化」が記載されておりますが、水戸のまちを楽しむ人を増やすということは、いかに水戸に来ていただいて楽しめるコンテンツを増やしていくかということにつながっていくと思います。コンベンションを誘致したとしても、日帰りではにぎわいの創出につながらないと思いますので、宿泊をしていただく必要があります。そのため、夜を楽しんでいただくコンテンツを増やしていくことが、まちなかの交流人口にもつながりますし、「しごとの創生」にもつながってくると思いますので、具体的な施策を考えた方がいいのではないかと感じております。以上です。

【座長】 事務局からお答えをお願いします。

【政策企画課】 まず、各 KPI の設定に関する考え方としては、各具体的施策の達成の進捗を図る上で、特に重要となるものを挙げております。

また、総合戦略全体の評価を行う際には、各 KPI に加え、個別事業の関連指標等も踏まえて評価していくという考え方でございます。例えば農業であれば、第7次総合計画や個別計画等で定めていく新規就農者数、農地集積率なども持続可能な農業の評価指標の一つになると考えております。

また、「まちなかの活性化」の具体的な施策については、素案の段階でより詳細なものをお示ししてまいりたいと考えております。いただいた御意見につきましては、商工課、観光課等でも個別計画を策定しておりますので、情報を共有し、よりよい施策ができるように検討してまいりたいと考えております。

【___委員】 やはり水戸らしい仕事に焦点を当てて考えていくと、先ほど御指摘のあった女性活躍の部分は非常に重要だと思いますので、女性の就業支援や再就職支援などが読み取れる計画にして欲しいというのが一つです。

それに加えて、スタートアップとも関係してくるのですが、大学との連携で、これまでのインターンシップより進んだ形で就業体験をさせるようなプログラムも始まると伺っています。こういった取組が、地域への就職、あるいは創業・スタートアップにつながっていく可能性がありますので、そういったことが読み取れるような形にしていればと思います。

交付金などを申請するときには、総合戦略のどこで読み取れるのかということが大事になりますので、意識していただきたいというお願いでございます。

また、4つの具体的施策がありますがけれども、具体的施策3と4については、「まちの創生」や「シティプロモーション」と重なる部分も多いと感じます。具体的施策3

「にぎわいの創出」については「シティプロモーション」に、具体的施策4「交流拠点の形成」は「まちの創生」に再掲するなど、工夫するとより分かりやすくなるのではないかと感じました。以上です。

【政策企画課】女性の活躍については、素案において、しっかりと位置付けを検討してまいります。

また、大学との連携も大変重要なことだと考えております。人材育成はもちろんのこと、定住という観点からも、若いうちから地域のことを知っていただくため、本戦略の推進体制として、資料の13、14ページに記載しているとおり、産・学・官連携のもと、各事業においても、各大学さんとの連携を進めていきたいと考えております。

また、「シティプロモーション」に関しては、施策の柱1から3で磨きあげたまちの魅力がなければ、PRするものもございませんので、大いに関係するものであると考えております。こちらに関して、より分かりやすい表現となるよう検討してまいりたいと考えております。

【___委員】スタートアップ支援が話題になっておりますが、水戸にはワグテイルというコワーキングスペースがあり、この施設を更に充実させて、スタートアップ支援の拠点施設として位置付けた方がいいのではないかと考えております。

以前も提案させていただきましたが、山口県宇部市には「宇部スタートアップ」という施策があり、産業、大学、学校、公共、金融の分野としっかりと連携して、セミナーやコンテスト、情報提供、創業支援を一体的に行っておりますので、参考にすると良いのではないかと考えています。

また、具体的施策4「歴史・文化資源を生かした交流拠点づくり」について、具体的に何を指しているのか教えてください。

【座長】事務局、お願いします。

【政策企画課】ワグテイルの充実に関しましては、所管課とも改めて協議を行い、位置付けを検討してまいります。

「歴史・文化資源を生かした交流拠点づくり」に関しましては、弘道館、水戸城跡周辺地区やMitori0地区、アダストリア水戸アリーナ等の重要な資源に関する交流拠点づくりの位置付けを考えております。

【___委員】数値目標の観光消費額についてはあまり使われていない数値である気がしますが、簡単に取れる数字でしょうか。

【政策企画課】観光消費額の計算手法については、茨城県の観光動態調査において県全体の観光消費額を算出しております。そちらとの関連性から、水戸市の観光消費額を推計していくということで、算出に手間がかかるものではないと認識しております。

【___委員】「しごとの創生」という中で、観光も大きな役割を果たしていくと思うのですが、裾野が広いとはいえ、柱の数値目標として適しているのかという疑問があります。市内の消費には様々な種類の消費があり、外部から観光客として来た人が水戸で使った金額だけを計算するというところで、全体を捉えているのか疑問に感じるのですが、見解はいかがでしょうか。

【政策企画課】観光消費額を推計する基礎となる観光交流人口には、様々な施設利用者も含まれています。例えば、梅まつり期間中についても、借楽園だけではなくて、市内の文化施設等の入込客数も観光交流人口に入っております。そういった視点から、「しごとの創生」において重要な観光分野の効果を捉えることができる指標であると考えておりますので、柱の数値目標として適しているものであると認識しております。

【___委員】ありがとうございます。

消費額の計算が、おそらく大まかな計算になってしまうと思います。海外からのインバウンド客も県内の観光客も同じ金額を掛けて算出しているのではないかと思ったので、実態と乖離した数値とならないように工夫していただければと思います。

【政策企画課】しっかりと所管課と検討してまいりたいと思います。

【___委員】創業・スタートアップ支援について、現在日本ではインボイス制度や最低賃金のアップにより、従業員が雇えない事業者が多くなってきており、今後、DXにより人を削減していく動きがこれから強まるのではないかと考えられます。そういった観点から、後継者問題が課題となっており、黒字化はしているけれど、会社を畳まなければならない事業者が市内には多くあると聞いております。そのようなことから、ハードルが高いスタートアップ支援ではなくて、後継者問題も視野に入れてみてはどうかと感じました。

【政策企画課】事業承継につきましては、第2次総合戦略にも位置付けており、引き続き、商工会議所とも連携をしながら、しっかり取り組んでまいりたいと考えております。

具体的には柱の1「しごとの創生」のうち、具体的施策1の中に「中小企業の成長支援」がございますので、こちらの中で位置付けを検討していきたいと考えております。

【座長】「しごとの創生」について、多くの御意見をいただきました。次に、8から9ページの2つ目の柱、「ひとの創生」について、御意見等お願いいたします。

【___委員】住みたいまちランキングなど、様々な調査がありますが、富山県の町が1位だったりするランキング調査がございます。それに対して、不動産大手のホームズ総研の島原万丈さんが実感として違和感を覚えて実施した調査が、「Sensuous City」という本でまとめられています。この調査では、量的に何があるかではなく、アクティビティに焦点を当てて調査を実施しています。ほとんどの住みたいまちランキングの調査は、下水道普及率や人口当たりの博物館の数など、施設の量を競っているような部分があります。

「Sensuous City」の調査では、行って感動した、商店街を歩いていたら良い匂いがした等の質問項目を設け、人の衣食住に関わることについてどれだけ満喫しているかを調査しているのです。実際に、四国の南陽市では、郷土食材だけを使って学校給食を作り、毎回先生が説明しながら食べるという試みを実施しており、その結果、その子どもたちが大人になったら、ふるさとが大好きな人ばかりになったという話もあります。

「ひとの創生」については、自分のまちにないものを欲しがるのではなく、自分の住むまちにどれだけいいものがあるかということ伝えて欲しいなと思います。

ブータンは良い例で、幸福度世界一と言われておりますが、施設があるからではなく、住んでいる人が満足しているからなのです。私たちも、まちをどれだけ満喫するかが誇りにつながると思うのです。そういったことの積み重ねが、ふるさとで働きたいとか、まちをもっと良くしたいということにつながってくると思いますので、「ひとの創生」においては、水戸のまちをどう満喫するかということ、しっかりと伝えるプログラムがあるといいのではないかと考えております。

【座長】御意見かと思いますが、何か回答があればお願いします。

【政策企画課】まさに、重点である「シティプロモーション」にも関わることでありまして、自分たちのまちに誇りを持ち、自分たちのまちのいいところを皆が知らなければ、やはり外に伝えていくということにつながらないと考えております。

シティプロモーションに関しては、外に対するPRの意味合いもありますが、実際に市民の皆様とともに、自分たちのまちの良いところ、自分たちが満足できるものがこれだけあるのだということを実感できるような取組を実施していきたいと考えております。

また、既に実施している取組として、小・中学生の仕事体験や、高校生・大学生のインターンシップについても、郷土愛につながるものであると考えております。

【___委員】先ほどの話でも出ていますが、やはり、水戸のまちに誇りや愛着を持っている子どもたちを育むということは非常に重要であると考えております。

前回の会議でも、水戸スタイルの教育の推進を位置付けていただきたいとお願いしており、今回、具体的施策2に水戸スタイルの教育の推進が記載されておりますが、どちらかという個性を伸ばすニュアンスで入っているように感じます。基本的方向の2段落目のところに、水戸のまちに誇りや愛着を持つ子どもたちの育成ということをしかり表現したほうがいいと思うのですが、いかがでしょうか。

【座長】事務局、お願いします。

【政策企画課】先ほどの話とも通ずる部分でございまして、「ひとの創生」の施策の中で、子どもたちが地元に対して愛着を持つことは大変重要なことであると考えておりますので、表現については素案作成の段階で検討させていただきたいと思っております。

【座長】水戸市内に限らず、高校生に対して、水戸で働くイメージや働き方、ライフスタイルなどを伝えて、理解してもらえるような機会を持っていないのかなと思います。

市においては、しごとに関わる部分でも大学と連携した取組を実施しておりますが、大学においても、ビジネスプランコンテストなどを主催しております。ビジネスプランコンテストについては、最終選考に残ってくるチームの大部分は高校生であり、そのような結果を踏まえれば、産業界とも連携し、高校生の夢を応援し、水戸で実現する後押しをしていくことが必要ではないかと考えております。

また、学力の向上が KPI に入っておりますが、少し悩ましい部分もあります。実際学力を上げていくほど、子どもが減っております。一方で、水戸市内や県内で受け入れられる学生数は限られ、需要を満たせていない状況であり、茨城県全体で 75%が大学進学で県外に行きます。水戸市では更に多いと思います。高校卒業後の地元定着が課題となりますが、学力を上げれば上げるほど、高等教育を受けるために県外に出ていくということが実態としてありますので、何を目指していくのかということを検討していく必要があると思います。以上です。

【___委員】私も全く同じで、総合戦略の KPI に「全国学力・学習状況調査平均正答率」を設定することについては疑問に感じました。

【___委員】学力の向上は大事な部分ではありますが、点数を上げることが大事なのではなく、学ぶことによって、考える力を身に付けることができることから、ペーパーテストの点数を上げることに固執するのではなく、能動的に動く子どもたちを育てる教育を展開していかなければならないと考えています。そのためには、子どもたちが小さい頃から能動的に動く企画を組んで、人を育てる教育をしていく必要があると思います。教育を考えていくと、子どもたちが自分で考え、能動的に動くようになれば、能動的に水戸に戻ってきてこんな仕事がしたいとか、水戸でこういうふうな役に立ちたいとか、そういった心も育っていくと思います。そういった形を一つの将来像として捉えて、水戸の教育を特色化していくといいのではないのでしょうか。そうすることにより、子どもたちが水戸市内ばかりではなく、全国的にも活躍していくと思います。

教育において、子どもたちが能動的に動く企画をたくさん組んで、能動的な子どもたちを育てることによって、能動的に水戸に戻ってくるサイクルがうまく作れるといいのではないかと思いますので、ぜひ工夫していただきたいと思います。

【座長】それでは2の柱について他になければ、資料 10 から 11 ページの3の柱「まちの創生」

に行きたいと思います。こちらについて御意見等ございましたら、挙手をお願いいたします。

私から質問ですが、具体的施策3で、ゼロカーボン・エコシティが掲げられていますが、想定される事業の中にあまり具体的には触れられておりません。行政として今後のことを考えると、これがかなり上位のところに来るはずだとは思いますが、総合計画も含めてどういう事業を考えられているのかをお伺いしたいと思います。また、事業の実施だけではなく、シティプロモーションの材料にもしていくことは考えているのか、これからのことを考えて新たに取り組もうとしていることがあるのかについて伺いたいと思います。

【政策企画課】ゼロカーボンに関しましては、前回会議でGXの位置付けに関するご意見をいただいたことから、資料1ページの基本的な考え方にも記載しており、座長のお話のとおり、すべての前提になる考え方であると認識しております。

これに関しましては、地球全体で目指していかなければならない環境課題への取組が、本市におけるゼロカーボン・エコシティにつながっていくものであると考えていることから、本市としても、温暖化対策実行計画を改定において、国の目標を踏まえながら関連する目標を高く掲げており、今後のさらなる施策の充実に努めていくところでございます。

新しい取組については、本日ピンポイントで申し上げられる情報がございませんが、特に省エネなどの取組において、本市と各事業者が連携して進めていくものということ、素案の中で位置付けてまいりたいと思います。

【政策企画課】補足させていただきます。

第7次総合計画におきましては、ゼロカーボン・エコシティの実現について、一つの小項目としての柱立てをしまして、施策に取り組むこととしてございます。

また、新たな施策につきましては、電気自動車や充電設備の導入に取り組むほか、水戸ゼロカーボン未来住宅パッケージとして、環境負荷の少ない移動手段の利用促進、住宅における環境負荷低減の促進等含めた補助制度の推進などを現在計画しているところであり、こうしたものについても、本戦略に盛り込んでまいりたいと考えております。

【座長】あまりここを重点にして、シティプロモーションしていくという位置付けではないということですね。

【委員】具体的施策1の想定される主な事業と業績評価指数がマッチングしていないような印象を受けております。

医者を育てるために資金を貸与することよりも、病診連携の充実や地域包括ケアをどういうふうにも水戸市内で充実させていくのかということが業績評価の指標になるのではないかと思います。

また、ボランティアの登録者数についても、例えば、訪問看護ステーションのスタッフや介助するようなケアの方などの医療従事者を充実させていくことが指標になってくるのではないかと考えられます。そのため、ここについては全面的に考え方、具体的な取組事業などを見直さなければならないと思います。以上です。

【政策企画課】具体的施策1につきましては、医療の部分に加え、地域コミュニティ活動やNPOといった生涯学習の要素も含めているものでございます。KPIにつきましては、医療分野のイメージと若い方々にも定住していただくというニュアンスを含め、医師修学資金をKPIとして設定しております。今後、素案作成をする中で、いただいた御意見も踏まえながら、特に重要なKPIとしてどういったものを設定すべきか再度検討したいと考え

ております。

【___委員】このまち・ひと・しごと創生というベースの中における一つの項目として「まちの創生」という柱を挙げ、その中に関連する分野の施策の概略を入れたものと認識しております。第7次総合計画では、医療関係のことも含め幅広いものが盛り込まれておりますが、この戦略に全部盛り込むとむしろ重くなってしまって、何を指すのかがよく見えなくなってしまうだろうという気がしております。

また、具体的施策3のKPIについて、コンパクトシティを目指すという考え方を持っていますので、都市核の人口集積率をKPIに入れるのはいいと思います。もう一つのシェアサイクル利用数については、評価指標として設定するほど進捗しているのか実態を教えてくださいたいと思います。

【政策企画課】シェアサイクルにつきましては、始まったばかりの事業ではございますが、進捗として利用率はかなり高いものとなっております。シェアサイクルのポートについては、現在は水戸駅から中心市街地における設置が主ですけれども、茨城大学にも新たに設置したところでもあり、今後もニーズの高まりを踏まえて、さらに拡大をしていきたいと考えております。そのようなことから、KPIとして設定しているものでございます。

【___委員】3の柱の数値目標項目については、水戸市が住みやすいと感じる市民の割合と災害に満足しているという市民の割合を設定しておりますが、世の中はどんどん変わってきますし、他の自治体との相対的な競争になってきます。そのため、大事なのはどうすればもっと住みやすくなるのか、どうなれば他の人に胸を張って勧められるのかということを探り出し、洗い出していくことではないかと思っております。

【政策企画課】市民の皆様のご意見やニーズについて、より深い部分を探り出していったら、どのようなまちに住んでいきたいかということをより深掘りしていくべきだという御意見かと思っております。今後、市民の皆様から御意見等いただく際の参考にさせていただきたいと思っております。

【___委員】提案ですが、具体的施策2「安全に暮らせる環境づくり」の想定される主な事業に、交通安全と防犯の充実といったところがありますので、このKPIに10万人当たりの犯罪率の発生率を入れることにより、水戸が安全だということをアピールできるのではないかと考えますがいかがでしょうか。よろしく申し上げます。

【政策企画課】御提案も含めて、再度検討してまいりたいと思っております。

【座長】続いて、資料12ページの「シティプロモーション」の項目にまいります。御意見等はございますでしょうか。

【___委員】この項目については、他の項目と比べて少し内容が薄い気がしています。KPIに移住相談件数が設定されていますが、これを増やすために具体的にどんな施策をやるのかということが明記されておられません。

先進事例であります。宇都宮市においては「住めば愉快だ宇都宮」というキャッチフレーズを設け、首都圏からの移住者を増やす施策に取り組んでいます。例えば「miya come (ミヤカム)」という相談窓口を設けており、昨年は448件の相談を受け、実際に128世帯が移住した実績も作っています。宇都宮の場合ですと、テレビCMとかインターネット広告を活用したり、首都圏の未婚女性をターゲットにした婚活イベントを実施し、うまくその後につなげたりしています。その他にも、家賃補助、マイホーム取得補助、新しく居住した人達へ生活支援、東京圏への通勤通学費の上限月当たり1万円の補助など、移住者を増やすための様々な具体的な施策を実施しております。この辺りも掘り下げてみてはどうかという提案でございます。

【政策企画課】検討してまいります。

【___委員】「シティプロモーション」を施策の柱に位置付けたということで、これまでのホームページのリニューアルを含め、本腰を入れていくものと感じています。ただ、他の市町村でも同じようにシティプロモーションに取り組んでおりますので、やっぱり水戸がすごいねって言われるような取組をしていただけたらと思います。予算に限りもありますけれども、お金をかけなくても工夫次第でいろいろなことができると思いますので期待しております。

【___委員】KPI に入れるかどうか別にして、プロモーションの結果、テレビ取材やネットでどれぐらい取り上げられたかについて把握し、公開していくといいのではないかと思います。以上です。

【___委員】シティプロモーションを推進していく上で、若い力を大いに活用していただきたいと思います。

行政だけで考えようとするとうとと限度がありますし、小学生、中学生、高校生、大学生そして一般の方々も含めて、様々なアイデアを持っています。どんなことをどのようにして PR していくかなど、アイデアがたくさん出てくると思いますので、若い力を活用する場をたくさん設けていく必要があると考えています。それによって、若い人たちの自己肯定感が高まり、水戸にまた戻ってきたいと思うはずですから、ぜひ若い力を活用するという視点で、シティプロモーションを展開していただければと思います。

【___委員】シティプロモーションについては、4 ページのイメージを見ると、施策の柱の 1 から 3 を効果的に内外に発信していく施策として位置付けられており、重点施策にもなっておりますが、各施策とシティプロモーションがどのように関わっているのか、その関係性が資料の 12 ページでも分かりにくいので、表現を工夫した方がいいと思いました。

また、数値目標の項目で、若い世代の市民のうち、今後も水戸市に住みたいと思う人の割合を設定しておりますが、15 歳から 30 歳の人に今後も水戸に住みたいですかと聞いてもなかなか本当のことが見えてこないの、今までのご議論とかを踏まえますと、水戸市に対する思いとか誇りなどを聞いた方がいいのではないかと思います。以上です。

【___委員】具体的施策の想定される主な事業に「水戸の暮らしの PR」と記載があります。水戸市に住みたいということと、水戸に働く場所があるということは関係ないとは私と考えています。つまり、働く場所は近隣の市町村にあっても良くて、住みたいと思えるようなまちにしていくことが重要だと思います。近隣の方がむしろ整備された働く場所がたくさんあり、水戸市民はそこに朝通勤している状況がございますので、それはそれでいいのだらうと思います。

水戸の暮らしで PR できることがしっかりと明確になれば、どんなことをやっていけばいいのか見えてくるのだらうと思います。市として、考えていることがあればお聞かせいただければと思います。

【政策企画課】暮らしとは、様々な要素が含まれるものだと考えております。仕事や暮らしという観点であれば、水戸市内でどちらも完結する方もいれば市外に通勤される方もいらっしゃると思います。また、住居についても、中心市街地周辺にお住まいの方もいれば、農村部でお住まいの方もいらっしゃると思います。

暮らしの中で感じることはそれぞれにあると思っておりますので、シティプロモーションにおいては、統一的なものを何か一つ打ち出すというよりも、様々なエリアやライフスタイルに応じて、様々な水戸の暮らしの良い部分があるということをしかりと分類しつつ、それぞれの良さを PR していきたいと考えております。

その先に、皆さんが水戸の暮らしの中で良いと感じる共通したものが出来れば、それが水戸の暮らしのブランドになっていくのではないかと考えております。以上でございます。

【座長】ライフスタイルのモデルケースとして示していくというイメージの話かと思えます。他に何かございますか。

最後に 13 ページのデジタル化・DX の部分について、御意見があれば伺いたと思います。(手を挙げる者なし。)

それでは、特に今回はないということでございます。時間も限られていますが、全体を見渡して何かございましたら最後伺いたと思いますがいかがでしょうか。

【委員】資料の 13, 14 ページの推進体制と進行管理は、主語が全て水戸市役所となっていると思います。よく住民参加のまちづくりと言われますが、行政がお膳立てしたところに市民から意見をもらって、最終的に集約は行政で行うということになると、市民はお客様さんになってしまいます。そのため、行政が枠組みを整えて、あとは市民に任せるとい取組があつていいと思います。そうした連携が一番の推進体制なのではないかと思いました。以上です。

【座長】その他に何かございますか。

ここには各界の方がいらっしゃるの、それぞれの業界、企業ではこういうところを念頭に置いて進めているという取組がたくさんあると思います。それぞれの担当課には共有されているとは思いますが、実際に関わっていないと分からないというところがあるかと思しますので、推進体制には、実際に関わっているアクターの後押しなども含めて表現していただければいいのかなと思います。

最後、進行管理のところも含めて駆け足になりましたが、よろしいでしょうか。では、ここで本日の議事を終わらせていただきます。話しきれなかったことや、お気づきの点がありましたら、意見・提案書の様式を活用していただき、11月22日水曜日までに事務局へ送付をお願いします。円滑な会議進行にご協力いただきましてありがとうございます。事務局にお返しいたします。

【政策企画課】それでは以上をもちまして、令和5年度第2回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議を終了いたします。今後につきましては、本日、皆様からいただいた御意見を踏まえ、新たな総合戦略の素案を取りまとめまいります。第3回会議につきましては、年明け2月14日水曜日に市役所の中会議室、この会場において開催を予定しております。通知につきましては後日改めて送付させていただきます。新たな総合戦略の素案につきまして、御意見いただきたいと考えてございますので、よろしく申し上げます。本日は長時間に渡り、誠にありがとうございました。

(正午 会議終了)